

## 募集要項

### ■ 主催・共催・審査委員

主催 高等専門学校連合会

共催 第19回全国生涯学習フェスティバル実行委員会

後援(予定)

文部科学省 岡山県 岡山県教育委員会 津山市

津山市教育委員会 (社) コンピュータソフトウェア協会

(社) 情報処理学会 (社) 電子情報通信学会

教育システム情報学会 (独) 情報通信研究機構

山陽新聞社 NHK 西日本放送 KSB瀬戸内海放送

OHK岡山放送 RSK山陽放送

TSCテレビせとうち テレビ津山 プロコンの国際化を支援する会

津山工業高等専門学校後援会 津山工業高等専門学校同窓会

主管校

津山工業高等専門学校

事務局

大会事務局

独立行政法人 国立高等専門学校機構企画課内

委員会事務局

津山工業高等専門学校学生課内

プロコン公式サイト

<http://www.procon.gr.jp/>

審査委員 (敬称略、五十音順)

審査委員長

神沼 靖子 (前 前橋工科大学教授)

審査委員

猪子 寿之 (チームラボ株式会社 代表取締役社長)

臼井 支朗 (理化学研究所 脳科学総合研究センター チームリーダー)

梅村 恭司 (豊橋技術科学大学教授)

遠藤 直樹 (東芝ソリューション株式会社技監)

大岩 元 (慶応義塾大学教授)

大山 堅司 (株式会社ブロードリーフ 代表取締役社長)

尾川 正美 (富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 専任部長)

國枝 義敏 (立命館大学教授)

菅谷 俊二 (株式会社オブティム 代表取締役社長)

高山 由 (株式会社BCN 最高顧問)

田中 達彦 (マイクロソフト株式会社 アカデミック情報教育推進部マネージャ)

福野 泰介 (株式会社jig.jp 代表取締役社長)

松澤 照男 (北陸先端科学技術大学院大学教授)

南崎 英和 (NHK 報道局編集主幹)

宮地 力 (国立スポーツ科学センター副主任研究員)

吉川 敏則 （長岡技術科学大学教授）

（上記以外に、企業からの審査委員を若干名予定しています）

本コンテストは、全国生涯学習フェスティバルにおける参加事業のひとつです。同フェスティバルは、文部科学省等の主催によるものであり、本年は「まなびピアおかやま2007」という名称で、平成19年11月2日から6日までの5日間、岡山県内の各地で開催されます。

## ■ はじめに

全国高等専門学校第18回プログラミングコンテストを開催します。本コンテストは高専学生が、日ごろの学習成果を活かし、情報処理技術におけるアイデアと実現力を競うものです。前回同様、今大会も課題部門・自由部門・競技部門の3部門で作品を募集します。高専生の実力を世に問う絶好の機会でもありますので、高専学生ならではの独創的なアイデアを練り上げていただくとともに、近年著しい発展を続けている情報処理技術を駆使した大作に挑んで下さい。コンテストは予選と本選から構成されていますが、予選の選考には作品のアイデアが重視され、応募の段階では作品が未完成であっても構いません。

本コンテストは、応募作品の発想の柔軟性やそのレベルの高さにおいて、関係各界から高い評価を得ています。また、NHK 教育放送はじめマスコミでも大きく取り上げられ、創造性教育のプロジェクトとしても注目を集めております。さらに最近では海外チームのオープン参加もあり、情報処理技術を競う国際交流の場ともなっております。全国高専生が参加するこの一大イベントに、多くの高専生から積極的な応募をお待ちしております。

本コンテストは、文部科学省をはじめとする多くの共催・後援団体ならびに協賛企業の支援により開催されます。本選での優秀チームには、文部科学大臣賞が授与されます。

## ■ 開催期日および会場

### 1. 募集期間

平成19年5月24日（木）～ 5月31日（木）必着

応募方法等の詳細はプロコン公式サイト「応募要領」をご参照ください。

### 2. 予選（書類審査）

期日 平成19年6月30日（土）

会場 東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス（東京都品川区）

### 3. 予選結果

7月3日（火）までにプロコン公式サイトにて公表する予定です。

なお、学校宛に郵送にて通知します。

### 4. 本選（詳細は予選通過者に別途連絡します）

期日 平成19年10月6日（土）～ 10月7日（日）

会場 津山文化センター（岡山県津山市）

主管校 津山工業高等専門学校

## ■ 応募資格・募集部門

### 応募資格

全国の国公立高等専門学校に応募の時点で在籍する学生（専攻科生を含む）。

### 募集部門（各部門内容についてはプロコン公式サイトをご参照ください）

各高専について以下のように募集します。

課題部門	2チーム以内	1チームの人数は 2~5名
自由部門	2チーム以内	1チームの人数は 2~5名
競技部門	1チーム	1チームの人数は 2~3名

## ■ 審査方法

本コンテストは予選・本選の2段階で実施します。予選・本選を通じて、高専生の豊かな創造性を重視します。

### 予選審査方法

1. 予選は、応募要領に従って提出された PDF ファイルに基づいての書類審査とします。予選を通過したチームにより本選を行います。
2. 予選審査は作品の独創性が重点的に評価されます。また、有用性・実現の可能性についても重視されます。
3. 課題部門については応募作品の内容がテーマに相応しいかも審査します。
4. 課題部門および自由部門では、両部門合計40チーム程度が予選を通過します。各部門において、半数程度は成績評価のみにより予選通過が決まります。残りの半数程度は、成績の他に同一高専の出場チーム数等を加味して予選通過が決まります。
5. 競技部門の予選では、応募用紙に書かれた実現の方法とそのアイデアのおもしろさ、実現の可能性によって評価します。

### 本選審査方法

1. 課題部門および自由部門では、プレゼンテーションおよびデモンストレーションを総合的に審査します。審査の観点は、独創性・システム開発の技術力・有用性・操作性・マニュアル作成能力・発表能力（ドキュメンテーション能力、プレゼンテーション能力）などです。
2. 課題部門および自由部門ではプログラムソースリストを審査の参考にします。予選通過チームはプログラムソースリストを本選時に提出してください。
3. 課題部門および自由部門では操作マニュアルも審査の対象にします。予選通過チームは操作マニュアルを本選時に提出してください。
4. 競技部門は、対抗戦により勝敗を決定します。

## ■ 表彰

課題部門、自由部門においてそれぞれ次の賞を授与します。

最優秀賞 *	1点（賞状および副賞）
優秀賞	1点（賞状および副賞）
特別賞	数点（賞状および副賞）

\* 最優秀チームには文部科学大臣賞が授与されます。

競技部門において次の賞を授与します。

優勝 *	1点（賞状および副賞）
準優勝	1点（賞状および副賞）
第三位	1点（賞状および副賞）
特別賞	数点（賞状および副賞）

\* 優勝チームには文部科学大臣賞が授与されます。

## ■ 注意事項

### 1. システムの完成度について

本選に参加するチームは、予選通過時のアイデアを実現できるよう努力してください。予選通過時のアイデアが十分に実現されていない場合は、落選となる場合がありますので注意してください。

### 2. 交通費について

本選に参加する場合の交通費・宿泊費は、全部門について主催者からは支給しません。なお、宿泊所は主催者で斡旋しますので、本選参加時に別途通知します。

### 3. システム搬送について

本選でのデモンストレーションおよび競技に必要なシステムの搬送は、搬送費用も含め参加者側でお願いします。搬送手順の詳細については予選通過後に別途通知します。なお、主催者でコンピュータ等の準備をすることはありませんので注意してください。

### 4. デモンストレーションの展示スペース・インターネット接続について

会場の都合で本選の展示スペースは、1システムについて原則的に幅150cm、奥行150cm、高さ200cm程度に制限されます。また各ブースにインターネット接続を提供する予定です。詳細はプロコン公式サイトで公開します。

### 5. 応募作品に対する著作権は応募者が有しますが、以下の資料等については、記録ビデオ、プロコン公式サイト、パンフレット等に掲載することがあります。また、教育目的に使用することがありますのでご了承ください。

- (1) 応募時に提出していただいた書類（作品紹介、応募内容ファイル）
- (2) 本選時に提出いただく書類（パンフレット原稿、操作マニュアル）
- (3) 本選時に撮影した写真・ビデオ及びプレゼンテーション用データ

### 6. 本選の様態をインターネット経由で全国高専へLIVE配信します。